平成29年度

授業改善推進プラン

大田区では、昨年に続き平成２９年４月に、「大田区学習効果測定」を行いました。

本校は、その結果に基づき、本校の課題と、その課題の解決を図るための方策を整理し、「授業改善推進プラン」を作成しました。この授業改善推進プランに基づき学力向上に向けた取り組みを推進していきます。

平成29年8月

大田区立大森第四小学校

学力向上を図るための調査の結果から

・全般的に昨年度よりは向上しているが、区の目標値を満たしていない項目が多く、低位層の底上げと基本的な学習内容の定着を図る必要がある。
・国語科では、基礎・基本となる「話す・聞く」「読む、書く」力が課題である。自分の考えをまとめ、伝えることができるように、「書かれていることを正確に読み取る」「書く事柄を明らかにする力」「文章を組み立てる力」「文章を見直す力」などについて全学年で系統立てた指導を行う必要がある。
・社会科では、「観察・資料活用の技能」の資料やグラフの読み取りや活用と、「思考・判断・表現」の収集した資料をもとに話し合ったり、自分の考えを深めたりすることが課題である。
・算数科では、「数量関係」の理解の定着と、「数学的な考え方」の育成が特に課題である。
・理科では、「観察・実験の技能」については条件設定や手順の理解が、「思考・判断」では予想理由や考察を考えることが特に課題である。

学力向上を図るための全体計画

大田区教育推進プラン

基礎・基本の確実な定着を図る指導の工夫・・・国語、算数教育の重視

大森第四小学校の教育目標

考える子
心豊かな子
たくましい子

保護者・地域

○　児童・保護者・地域・学校の実態
○　保護者・地域の願いや期待

各教科の指導の重点

学ぶ楽しさや意欲を高め、基礎的・基本的な内容の習得や、主体的な問題解決学習、個に応じた学習を推進する。

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

・学ぶことの楽しさを味わわせ、関心・意欲を高める
・少人数・習熟度別学習など、個に応じた指導の充実
・基礎的・基本的内容の定着の重視
・自ら学び、自分の考えを表現できる学習の推進
・発達段階に応じた問題解決学習の重視

生活科・総合的な学習の時間

各教科との関連を図り、地域の施設、人材を活用した、体験的な活動を重視し、自ら考えよりよく課題を解決できるよう支援する。

道徳指導の重点

道徳の時間及びその他の教育活動全体を通じて、体験活動を積極的に取り入れ、豊かな人間性と道徳性を育む。

大森第四小学校が目指す「確かな学力」

・　学習指導要領に示された内容の確実な定着
・　既習事項を想起し、見通しをもって課題を解決することができる主体的な学びの力

生活指導の重点

集団の一員としての自覚のもと、進んであいさつしたり、相手を考え思いやりのある行動をとったりすることができるようにするとともに、規範意識を高める。

学力向上に向けた視点（下線はプランの実行性を高めるための方策）

教育課程の工夫	学習指導の工夫・改善	評価の工夫	家庭・地域との連携	研究・研修
○朝や放課後・土曜日、夏季休業中に国語・算数を主とした基礎・基本の学習の時間及び、読書タイムを設定し、基礎学力の定着及び読書習慣の形成を図る。 ○学校行事の見直しと効率化を進め、授業時間の確保に努める。	○習熟度別の学習を、算数を中心に進め、個に応じた指導の充実を図る。 ○漢字・計算・音読等を繰り返し指導することで基本的な学習の定着を図る。 ○問題解決学習を重視し共に、相互に学び合い、考えを表現したり、伝えたりする活動を多く設定する。 ○区漢字検定に加え、東京ベーシックドリルを活用し、大四算数検定を行う。 ○重要課題を明確にした「大四小ミニマム」を作成し、週案に貼付し、授業の指導内容の精査や教員の自己評価につなげる。	○評価規準、評価計画に基づいた自己・相互評価、教師による評価を随時行い、個々の児童の新たな学習への助言や個に応じた支援を適切に行う。 ○児童、保護者による授業評価を実施し、授業改善に生かす。	○全教育活動を通じ地域や保護者と連携することで教育効果の向上を図る。 ○保護者や地域のボランティアによる読書教育への支援体制を充実させる。 ○毎月の学年だよりに「家庭学習のすすめ」を発行し毎日の家庭学習を奨励するとともに、宿題の内容について工夫する。 ○学年×１０分を目標に家庭学習をすすめる。	○確かな学力の定着のため、「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫～国語科「読むこと」を通して～」を校内研究のテーマとして、全学年が授業研修を行う。 ○全学級での公開授業を行い外部の講師による指導を積極的に受ける。 ○自己申告に基づいた研究会・研修会への積極的な参加と成果の還元に努める。 ○若手教員を育成するための自主研修を行い、研修内容の充実を図る。 ○OJT の推進と充実を図り組織的な人材育成に努める。 ○大田区体力向上推進校として健康教育を推進するとともに、体育・健康授業地区公開講座を実施し地域への情報発信を行う。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校国語）

１　国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果
・低学年においては、音読練習を継続したことで、国語に対する意欲につながっている。
・日記などの書く活動により、「へ、は、を」を正しく活用できるようになってきた。
・学習効果測定の結果から見ると、４年生は、全ての観点で昨年度の観点別正答率に比べると、全ての観点で上回った。５年生は、全ての観点で目標値を達成している。６年生は、「話す・聞く能力」「読む能力」の観点で大きく目標値を下回ったものの、「書く能力」は目標値を上回り、「言語についての知識・理解・技能」は、昨年度より約30ポイント上がっている。昨年度の学習の成果が表れていると言える。

課題
・漢字の読み書きが十分にできていない。
・言葉の語句やきまりについての理解が不十分である。

２　国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	＜４年生＞ ・「話し合いの内容を聞き取る」「物語の内ようを読み取る」の内容で目標値を上回ることができた。 ・「漢字を読む」「漢字を書く」「言葉の学習」「説明文の内ようを読み取る」「調べたけっかの表をもとに文章を書く」「作文」の内容で目標値を下回った。 ＜５年生＞ ・「言葉の学習」の項目以外、すべての項目で正答率が目標値より上回っている。「言葉の学習」では目標値を下回っている。 ＜６年生＞ ・目標値を下回ったのは、「説明文の内容を読み取る」、「話し合いをもとに活動報告を書き直す」である。 ・目標値を大きく上回ったのは、「漢字を書く」である。
観点別結果の分析	＜４年生＞ ・「話す・聞く能力」の観点以外の観点で目標値を下回っている。特に書く能力の観点が大きく下回っている。 ・昨年度の観点別正答率に比べると、全ての観点で上回っている。 ＜５年生＞ ・「国語への関心・意欲・態度」の正答率は、目標値を達成できた。 ・「話す・聞く能力」の正答率は、目標値を達成できた。 ・「書く能力」の正答率は、目標値を上回った。 ・「読む能力」の正答率は、目標値を上回った。 ・「言語事項」の正答率は、目標値を達成できた。 ＜６年生＞ ・目標値を上回ったのが、「書く能力」である。目標値を上回った。「言語についての知識・理解・技能」においてもほぼ目標値と変わらないが、昨年度と比べ、「言語についての知識・理解・技能」は約３０ポイント伸びている。 ・目標値を大きく下回ったのは「話す・聞く能力」、「読む能力」である。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○文章を書くことに不慣れである。	・視写、ひらがな５０音を練習する。 ・定期的に日記指導、作文指導を行う。 ・物語を書いたり、疑問に思ったことを調べて報告する文章を書いたり、学級新聞に表したりする活動をクラスの実態に合わせて実施していく。
○理由や事例を挙げて自分の考えを書く力が不十分である。 (時間が足りず、問題に取り組めていないため、低い数値が出ている可能性がある。)	・表からわかったことを文章に書く活動を授業の中に取り入れる。
○話し合いをもとに活動報告を書き直す力が十分でない。 (時間が足りず、問題に取り組めていないため、低い数値が出ている可能性がある。)	・話し合いをもとに活動内容を書き直す活動を授業の中に取り入れる。
○説明文の内容を読み取る力が十分についていない。	・音読を繰り返し行う。教材文の視写をする。 ・短い説明的文章に触れる機会を増やす。説明的文章を読み取るワークプリントに取り組む。
○漢字を読み書きする力が十分についていない。	・継続的に漢字の読み書きをノートに丁寧に練習させ、小テストを実施する。
○修飾語についての理解が不十分である。	・修飾語を使った例文を書き、紹介し合ったり、カードゲームを取り入れたりして、楽しく理解させる。
○述語、連体修飾語、指示語についての理解が不十分である。	・語句についての例文を作ったり、カードゲームを取り入れたりして、楽しく理解させる。

４　国語科の授業改善策

○関心・意欲・態度

「話す・聞く」「書くこと」に関して、関心・意欲を高めるために

１年　・朝の会や帰りの会などで、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。
　　・「あのね」日記を使って、経験したことや自分の考えを書く活動を定期的に取り入れる。

２年　・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことや児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を　繰り返しもつ。日記を書く学習を継続的に行う。

３年　・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことや児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を　繰り返しもつ。行事の後に作文を書く機会を設け、書く意欲が持てる場を設定する。

４年　・一人で話す（スピーチ)、二人で話す、グループで相談する、クラスで検討するなど、授業形態を工夫して話す機会を増やす。自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や行事作文の他に意見文を書く練習をさせ、書く機会を多く設ける。

５年　・小グループや学級全体など話合いの機会を意図的に設定し、自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。

６年　・少人数のグループで話し合う時間を取ることで、一人一人が話す機会を増やす。自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。

○話す・聞く

中心になることを意識して話したり、話し手の意図を考えて内容を聞いたり、メモを取ったりする力を育てるために

１年　・朝の会や帰りの会などのスピーチで、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。また、質問をすることで、大事なことを落とさないで聞く習慣を付けさせる。

２年　・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことが相手に分かるように話す機会を繰り返しもつ。
・メモの取り方を提示してから、スピーチなどでメモを取る練習を継続的に行う。

３年　・「よく聞いて、じこしょうかい」「よい聞き手になろう」では出来事の説明や調査の報告をしたり友達同士の意見を聞いたりすることで話の中心に気をつけて聞く力を身に付けさせるとともに、質問をしたり感想を述べたりする力をつける。
・「つたえよう、楽しい学校生活」では、学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりする活動を通して、必要な事柄を調べたり要点をメモする力を付ける。

４年　・一人で話す（スピーチ）、二人で話す、グループで相談する、クラスで検討するなど、授業形態を工夫して話す機会を増やすとともに、メモを書く活動を継続的に取り入れ、聞いたことや考えたことをまとめて書いて表現させる。

５年　・小グループや学級全体など話合いの機会を意図的に設定し、自分の考えを伝えたり友達の意見を聞いたりして考えを深めたり広めたりできるようにする。
・話を聞く時のメモの取り方を工夫し、ポイントをしぼって聞いたりまとめたりできるようにする。
・メモをもとにして、自分の考えを分かりやすく伝える活動を取り入れる。

６年　・少人数のグループで話し合う時間を取ることで、一人一人が話す機会を増やす。
・スピーチをすることで、自分の考えをまとめ分かりやすく伝える力を伸ばす。
・話を聞く時のメモの取り方を工夫させる。

○書くこと

理由や事例を挙げて自分の考えを書く力を高めるために

１年　・「あのね」日記を使って、経験したことや自分の考えを書く活動を定期的に取り入れる。
・行事の後だけでなく、定期的に日常の出来事や経験したことを作文で書く活動を取り入れる。

２年　・日記を書く学習を継続的に行い、自分が経験したことを思い出して、順序よく書く。また、お互いの文章を読み合うことで、自分が書くときの参考として書くようにさせる。

３年　・書く中心を明確にさせ、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書かせる。作文を書く前に、教科書にある書き方の要点をおさえさせてから書かせるようにする。
・「ありがとうをつたえよう」で目的に合わせてお礼状やあいさつ文を書いたり、「食べ物のひみつを教えます」で収集した資料を効果的に使いながら説明をする文章を書いたりする活動を通して、書くことの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力を付ける。

４年　・「自分の考え→理由や事例」といった頭括型、「理由や事例→自分の考え」といった尾括型、「自分の考え→理由や事例→自分の考え」といった双括型の作文の型を指導し、意見文を書く練習をさせる。
・作文を書くとき組み立てメモを書いて、文章の書き方を指導する。また、推敲の仕方も指導し、自分が書いた作文を推敲させたり、友達が書いた作文を推敲したりする機会を作る。

５年　・日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。
・書きたいことの中心を明確にし、「始め、中、終わり」を意識して、文章を書く活動に取り組ませる。
・具体的な文章が書けるようにモデルを示す。

６年　・日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。
・自分の考えを明確にして文章が書けるように、書き方のモデルを提示する。また、理由や例示を挙げることで、具体的に書けるように指導する。

○読むこと

要旨を捉えて読んだり、場面の情景や叙述を想像して読んだりする力を育てるために

１年　・音読カードを使い、宿題などで教科書の物語や説明文、音読集の詩などを音読することで、読む習慣を身に付けさせる。

２年　・国語の単元計画の中で、「読解」の時間を多くとるようにする。文章を読んで自分が思ったことや想像したことなどを書き出す活動を繰り返し行う。

・読み物教材の単元では並行読書などを取り入れて、読書に興味を持たせる場を設定する。
・読み取りの授業では一つ一つの言葉を大切にして、具体物を見せたり、語彙の確認を行ったりして読みを深めさせる。

３年　・「こまを楽しむ」で、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見の違いを考えて文章を読む力をつける。
・「もうすぐ雨に」「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」の物語を読み、感想を述べ合う。場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、重要語句や叙述を基に想像して読む力を養う。また、読書や読み聞かせを継続的に行う。

４年　・説明的な文章では、中心となる語句や文を押さえると共に、筆者の主張がどんなことなのかを考えながら、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える読みを重視する。
・文学的文章では、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述に即して読む力を養う。
・読書の時間を確保し、定期的に本の貸し出しを行ったり、読み聞かせや本の紹介をしたりして、本に親しむ時間を確保する。
・定期的に説明的な文章資料を読んで、どんなことが書いてあるか読み取りをしたり、資料の内容に対する感想を書いたりする課題を出す。

５年　・自分の知識や経験、考えなどを重ね合わせながら、場面の移り変わりや情景を想像して読む活動に取り組む。また、自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むようにさせる。
・叙述に即して読めるように、本文に線を引かせたり、本文を引用して考えを書かせたりする手立てを取る。
・読書に親しむために、読み聞かせや本の紹介をする機会を取り入れる。

６年　・読書量を増やすために、読書の時間を取り入れたり、おすすめの本を紹介し合ったりさせる。
・読み聞かせの機会を増やす。
・説明文では、文章全体の構成を捉えながら読めるよう教材を工夫する。
・場面の情景や叙述を想像して読めるように教材やワークシートを活用したり発表の場を工夫したりする。

〇言語事項

漢字の読み書きや語句・語彙の理解ができ、文の構成をきちんと理解して正しく文法を使いこなす力を育てるために

１年　・連絡帳を書くことで、長音、拗音、促音、撥音、助詞の「は」「へ」「を」を正しく使う習慣を身に付けさせる。

２年　・新出漢字は、毎日少しずつ学校での学習と家庭学習を継続的に行う。また、定着を図るためにミニテストを繰り返し行う。
・「書くってたのしいね」を使って、定期的に文法の学習を取り入れていく。

３年　・朝学習の時間等で継続的に漢字練習を行わせる。書く活動では既習の漢字を使わせる。また、年２回の区の漢字検定では、昨年既習した漢字を十分に復習させてから受検させる。
・どの教科でも、学習中に出た分からない語句は違う言葉で言いかえさせたり、自分の辞書で調べさせたりして言葉の獲得を幅広くできるようにする。また単元で関係のある写真や実物を見せ、語句・語彙の理解をさせる。

４年　・継続的に漢字の読み書きの指導を行い、テストを実施し定着を図る。また、その漢字を使った熟語の使い方も併せて指導し、語彙を増やさせる。
・年間２回の区の漢字検定で、既習した漢字を復習させる。
・積極的に辞書を活用し、漢字の書き方や意味が分からない言葉は、辞書を引いて調べる習慣を付けさせる。
・ローマ字の復習を定期的に行い、ローマ字の読み書きを定着させる。

５年　・語句についての例文を作ったり、カードゲームを取り入れたりして、楽しく理解させる。
・漢字の復習テストを継続的に行い、定着を図る。
・宿題や朝自習を活用し、漢字練習に取り組ませる。
・難しい語彙が出たら、辞書で調べたり用例を紹介したりして、使い方を理解させる。

６年　・漢字の小テストを継続して行う。
・辞書を活用し、語彙を増やさせる。
・既習の漢字が定着するよう文章作りを行ったり漢字の復習をしたりさせる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

１　社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題
・中学年においては、見学や体験学習を取り入れることにより、社会科に対する意欲・関心を高めることができた。
・町たんけんや絵地図作りなどの具体的な学習を通して、四方位や地図記号の理解や定着を図ったが、十分な成果を上げていない。地図記号を覚えるだけでは、地図を読み取る力は向上しない。４年生以上の学年で地図帳を活用する機会を増やすことが必要である。
・高学年においては十分に社会科に対する意欲・関心を高めることができなかった。具体的な資料や映像資料を活用したり、自分たちの生活と結びつけて考え、ニュースや新聞の話題などを授業に取り入れたりして興味・関心をもたせることが必要である。
・高学年においては、調べ学習の機会を多く取り入れたが、そこから分かったことや自分の考えを適切に表現することが苦手な児童が多い。
・グラフの読み取り方のポイントを細かく丁寧に指導することで、読み取り方が分かる児童が増えた。
・地図帳クイズや世界の国々クイズなどを取り入れたことで、世界の国々や都道府県の特徴に興味をもって調べようとする児童が増えた。

２　社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	＜４年生＞ ４年生の平均正答率は、全体で目標値とほぼ同じであった。基礎的な内容の理解は目標値を上回っているが、知識を基に与えられた複数の条件を組み合わせて図示する、あるいは文章で記述する問題の正答率が低い。このことから、「設問を正確に読み取り、何を問われているのかを把握する」「資料から分かる事実を正確に読み取り背景にある理由を文章で記述する」学習を重ねていく必要がある。 ・地域や市の様子 昨年度は、絵地図の読み取りの問題の正答率が低かったが、今年度はほぼ同じであった。今後も「町たんけん」の単元等で、地図記号や方位磁針の使い方の指導、地図を使用してたんけんコースを図示する学習を繰り返し行っていくことが大切である。 ・生産や販売 全体的に目標値とほぼ同じである。今後、資料やグラフ、設問を正確に読み取る力の育成に向けての授業への取り組みが必要である。 ・先人の働き 正答率が目標値をやや下回っている。昔の道具を使ったり、地域の高齢者を招いたりしての体験活動や郷土博物館を見学しての調べ学習など授業のクフをすることが必要である。 ＜５年生＞ ５年生の平均正答率は、全体で目標値をやや下回った。「安全なくらし―交通事故や事件―」は目標値を上回ったが、「安全なくらし―火事―」や「地域の発展につくした人々」は下回った。また、「地図の見方」や「県の様子」は下回っている。地図を読み取り、複数の情報について答える問題の正答率が特に低かった。地図帳の使い方、縮尺、地勢図の読み取り方の指導が必要である。 ・安全を守る活動 ４つの領域の中では、比較的正答率の高かった領域である。予想を立て、副読本や教科書で調べたり、見学をして話を聞いたりするなど「予想→調べる→まとめる」といった問題解決的な学習の流れを大切にしていく必要がある。 ・生活環境を守る仕事 清掃工場を見学したり、水道キャラバンなどを活用したりするなど体験的な学習を行ったこともあり、正答率は目標値とほぼ同じである。学習が見学や体験だけで終わってしまうのではなく、「予想→調べる（見学、体験学習）→まとめる」といった学習の流れを行うことが大切である。 ・先人の働き 目標値により低かった。事例として授業で扱っていない内容なので正答率が低かったと思われるが、年表やグラフなどの資料の読み取り方を丁寧に行い、複数の資料から考える指導が必要である。 ・県の様子 目標値に対してより低かった。地勢図や人口分布図などいろいろな種類の地図の読み取りをある程度時間をかけて丁寧に指導する必要がある。 ＜６年＞ ６年生の平均正答率は、目標値を下回っており、全体的に学習内容の理解が不十分なので、ワークテストなどを活用して、復習することが必要である。グラフや表の読み取りを丁寧に行うことにより、学習内容をより確実に、より深く理解することができるようになった。複数の資料を関連付けて必要な情報を読み取ることが難しく、棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ等を丁寧に読み取らせ、複数の資料を関連づけて考えさせる指導が必要である。また、自分たちの生活と結びつけて考えたり、ニュースや新聞の話題などを授業に取り入れたりして興味・関心をもたせることが必要である。

内容別結果の分析	・国土の自然などの様子 　目標値より低かった。日本の周りの大陸名や海洋名、日本の国土の地形の概要、国旗など基本的な学習内容の確実な理解が必要である。また、様々な種類の地図や写真を関連づけて考えさせる指導が必要である。 ・農業や水産業 　目標値より低かった。大田区では実際に農作業体験や見学をすることが難しいので、写真・ビデオ・動画等、教材を工夫して提示する必要がある。 ・工業生産 　「太平洋ベルト」や「日本の貿易相手国」についてなどの理解がかなり低かった。復習の機会をとり、学習内容の定着を図る必要がある。 ・情報産業や情報化社会 　目標値より低かった。情報については、日進月歩で進んでいるので、常に新しい動向に注意しながら、児童の生活と結びつけながら考えることのできる授業を工夫することが大切である。
観点別結果の分析	○意欲・関心・態度 　４・５・６年生どの学年においても目標値より低く、学年が上がるほどその傾向が強い。「しっかりしためあてをもたせ、見学や体験学習を行う。」「写真やビデオなどの視聴覚教材を多く取り入れる。」「ニュースや新聞などを取り上げ、身近な生活と学習内容を関連させる。」など学習活動や資料の提示の仕方を工夫していくことが大切である。 ○思考・判断・表現 　４・５・６年生どの学年においても目標値より低い。しかし、４・５年生においては昨年度より正答率が伸びている。調べたことや見学、体験したことをまとめるだけでなく、分かったことや自分の考えをノートに書いたり、話し合ったりして自分の考えを深めることができる児童が少ない。設問を正確に読み取り、何を問われているかを把握する。そして資料から分かる事実を正確に読み取り、背景にある理由を文章で記述する学習を積み重ねていくことが大切である。 ○技能 　４・５・６年生どの学年においても目標値より低い。しかし、４・５年生においては昨年度より正答率が伸びている。いろいろな種類の地図の読み取りや都道府県を確実に覚えている児童は少なく、棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ、地勢図、分布図などのグラフや資料の読み方を丁寧に指導し、複数の資料を関連づけて考えさせる指導が必要である。 ○知識・理解 　４・５・６年生どの学年においても目標値より低い。しかし、４・５年生においては昨年度より正答率が伸びている。中学年で方位、地図記号、都道府県の指導を行ったが確実に覚えている児童は少なく、くり返し指導することが必要である。高学年では、視聴覚教材やニュースなどを活用したり、ミニテストをしたりして、学習内容の理解を定着させることが大切である。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○意欲・関心・態度 ・自分たちの住む地域や東京都、日本の産業や歴史、国際関係などの社会的事象についての意欲・関心が低い。	・明確なねらいや目的をもって、見学や体験学習を行う。 ・実物や模型、映像資料、ニュースや新聞などの記事など児童が興味を示しそうな資料を活用し、自分の生活と結び付けて、学習を進めるようにする。
○思考・判断・表現 ・見学等で情報を収集し、資料を活用して表現する力が十分でない。	・収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表させたりする。 ・調べて分かったことや考えたことを小グループで話し合わせ、表現する機会を多くもつ。
○技能 ・様々な地図やグラフなどの資料を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。	・白地図だけでなく、地勢図や分布図などを活用した学習を通して、地図記号の必要性を実感させたり、各種のグラフや地図の読み方を丁寧に行ったりする。 ・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ等のグラフを丁寧に読み取らせ、複数の資料を関連付けて考えさせる指導が必要である。
○知識・理解 ・地図記号や方位、都道府県の位置、主な山・川・平野、大陸名や海洋名、国旗などの理解が不十分である。	・地図帳を使う機会を増やしたり、ミニテストを行ったりして地図記号や都道府県などを確実に覚えさせる。
・歴史上の人物や出来事の理解が低い。	・歴史を流れで覚えさせると共に年表などの資料を活用し、時代背景を捉えられるようにする。

４　社会科の授業改善策

○意欲・関心・態度
　社会的事象への関心を高めるために

３年　・「くらしと商店」や「くらしと工場」では、明確なねらいをもって、見学や体験活動を行う。
　　・各単元で実物や映像資料、ニュースや新聞などの記事など児童が興味を示しそうな資料を活用する。
４年　・「しっかりしためあてをもたせ、見学や体験学習を行う」「写真やビデオなどの視聴覚教材を多く取り入れる」「ニュースや新聞などを取り上げ、身近な生活と学習内容を関連させる」など、学習活動や資料の提示の仕方を工夫していく。
５年　・実際に見学や体験をすることが難しい単元については、単元に関係する映像資料などの視覚教材を授業の中で活用し、産業や環境についての意欲・関心をもたせるようにする。
　　・自分たちの身近な生活と関連付けた教材や意外性のある教材を扱うことで、意欲をもたせるようにする。
６年　・映像資料や新聞、ニュースなどを活用し、意欲を高める。
　　・歴史では、時代の流れを捉えながら考えられるようにすることで、関心をもてるようにする。
　　・調べ学習の機会をできるだけ多くとり、児童の興味・関心を高めさせる。

○思考・判断・表現
　収集した資料等を活用して表現する力をつけるために

３年　・収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表させたりする。
　　・調べて分かったことや考えたことを小グループで話し合わせる時間を作り、表現する機会を多くもつ。
４年　・調べたことや見学・体験したことをまとめるだけでなく、分かったことや自分の考えをノートやワークシートに書いたり、グループで話し合ったりして自分の考えを深める学習を工夫する。
　　・学習問題や本時のねらいを正確に把握し、調べたことや資料から分かる事実を正しく読み取り、自分の考えを文章で記述したりグループで話し合ったりする学習を積み重ねていく。
５年　・映像資料やグラフの読み取りについて理解を深め、グラフから読み取ったことや映像資料を見て気付いたことをノートにまとめ、友達に発表したり新聞等に表したりする指導を行う。
６年　・いろいろな資料から情報を読み取り、自分の考えを書き表し、グループやクラス全体で伝える場を設定する。
　　・課題に対して文章で答える機会をもつ。

○技能
　資料を読み取ったり、活用したりする力をつけるために

３年　・白地図を活用した学習を充実させる。大田区の高低差は色を使い、視覚的に理解させる。グラフの読み取りは拡大した資料を掲示し、読み方を丁寧に行う。
４年　・適宜、地図記号等を復習し地図の読み取り練習をしたり、ゲーム的な要素を取り入れた活動を取り入れたりする。テストを行い、地図記号や都道府県を確実に覚えるようにする。また、地図の使い方の授業を行い、普段から地図帳を使う習慣を付け、地図帳の使い方に慣れさせる。
　　・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフなどのグラフや資料の読み方を丁寧に指導し、全体の傾向をとらえたり、複数の資料を関連付けて考えさせたりする指導を適時行う。
５年　・白地図を活用して、各産業の盛んな都道府県を白地図上に表したり、地図帳を活用して地域の場所を調べたりし、地図に慣れ親しませるとともに、読み取る力を伸ばす指導を行っていく。
　　・資料から読み取ったことをめあてに沿って考えさせたり、複数の資料を関連付けて考えさせたりするなど資料を活用する指導を行う。
６年　・年表や写真、絵巻物など資料を活用した学習を取り入れ、資料を読み取る時の観点を与えながら、丁寧に資料を読み取らせる活動を行う。

○知識・理解
　地図記号や方位、都道府県の位置、主な山・川・平野、大陸名や海洋名、国旗、歴史上の人物や出来事の理解を高めるために

３年　・大田区の地図を使い地図記号を確実に覚えさせる。
４年　・方位、地図記号、都道府県の位置など、くり返し指導したりテストを行ったりして確実に身に付けさせるようにする。
　　・大切な用語や普段あまり使わない用語は、カードに書いて具体的に内容の説明を行い、理解の定着を図る。
　　・自作テストやワークシートなどを活用して、学習内容の理解を定着させる。
５年　・産業を取り扱う時に、地図帳を活用して、学習する地域の周辺の都道府県を取り上げたり、東京都との位置関係をつかませたりする指導を取り入れ、都道府県の位置の知識を高める。
　　・授業の初めに、方位や都道府県、日本や世界の地理や国旗等についてフラッシュカードやミニテスト等で押さえ、学習内容の定着を図る。
６年　・ポイントを押さえることで、大事な事柄を確実に覚えたり定着したりできるようにする。
　　・年表や資料集を活用して、歴史を流れで覚えられるようにする。
　　・身近な生活の中で、政治とのかかわりを具体的に取り上げ、授業と関連付けて理解させる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

１　算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・具体物を操作したり図をかいたりするなどの算数的活動を取り入れたことにより、算数に興味・関心をもち、理解を深める児童が増えてきた。
・身の回りのものを使って時間、かさ、長さの習熟に取り組んできた結果、学習内容が定着しつつある。
・計算カードやプリントの活用、繰り返し既習事項を振り返ることで少しずつ計算の習熟を図ることはできた。
・かけ算九九、小数・分数の計算など基本的な計算方法が定着していないことが、新しい学習に支障をきたしている。
・言葉とブロックなどの具体物の操作を対応させて問題文の意味を理解させる指導をしてきたが、文章題の読み取りが難しい児童がいる。
・立式の時に、数直線図や図などを用いて考えることを指導してきた結果、理解の定着が一定は見られるが、十分身に付いているとはいえない。
・習熟度別学習で、個々のつまずきに対応でき、つまずいている部分の理解ができるようになってきた。

２　算数科における調査結果の分析

内容別結果の分析	・「数と計算」の内、「計算の復習」の平均正答率は３学年とも目標値を上回っているが、区の平均と比べると下回っている。「小数・分数の計算」では、学年が上がっても区の目標値を上回るか、ほぼ同値で、基礎的練習を繰り返し行った成果が見られる。また「わり算」の正答率はまだ不十分であり、引き続き復習を繰り返し行う必要がある。 ・「量と測定」は、６年生は目標値に達しており、４・５年生もほぼ目標値に達している。基本的な面積や体積を求めることはできているが、複合図形等条件を変えて考察する問題の理解が不十分である。 ・「図形」については、５・６年生は昨年より上昇し、目標値を上回っており、４年生もほぼ目標値に達している。特に５年生は、区の平均も少し上回っている。 ・「数量関係」では、４・５年生については区の目標値にほとんどの問題で達している。しかし、６年生では、大きく下回っている。「百分率」など小数の正しい計算が必要であり、内容が難しくなるためである。５・６年生では、反復（スパイラル）による学習指導を徹底的に行う必要もある。
観点別結果の分析	・「算数への関心・意欲・態度」の目標値達成率は、５年以外で下回っている。特に、算数に苦手意識をもっている児童の自信を取り戻すことが必要である。「算数的活動」を授業に積極的に取り入れ、算数学習の楽しさを感じさせたり、基本的な計算の復習を繰り返して定着を図ったりして、自信を育てていくことが課題である。 特に全体として、学年が上がるにつれて数値が下がってきており、授業を通して「できる」「分かる」という自信を育てていかなければならない。 ・「数学的な考え方」の目標値達成率は５年生で目標値に達している。４・６年生もほぼ目標値には達しているが、全学年とも区の平均値を下回っている。 ・「数量や図形についての技能」では、全学年で目標値に達していないのが現状である。学年が上がるにつれて内容が難しくなるので、反復（スパイラル）による学習指導を行う必要がある。 ・「数量や図形についての知識・理解」では、全学年で目標値に達していない。課題の意味や性質を正しく理解させるために、作業的・体験的な活動を取り入れたり、視覚的に分かりやすい説明を聞かせたりして理解を深めることが必要である。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○算数への関心・意欲・態度 ・算数に苦手意識をもっている児童がいるので、自信を取り戻すための手立てが必要である。	・学年ごとに算数的活動を明確化し、授業で取り組む時間を確保する。 ・基本的な計算方法などの復習を繰り返す。

○数学的な考え方 ・基礎的・基本的な計算は出来るが、計算の仕方や意味を説明することが出来ない児童が多い。各領域において、数学的な考え方に取り組み、育成する必要がある。	・数学的な考え方に取り組む単元や、重点箇所を各学年で明確化し、意識を統一する。 ・３年生から自分の考え、友だちの考え、学習のふり返りを書かせ、数学的な考えを育成する一助にする。 ・考える能力と表現する能力とは互いに補完しあう関係にあるので、考えを表現する場面（全体に発表したり、ペアで考えを伝えたり）を授業中に取り組む時間を引き続き確保する。
○数量や図形についての技能 ・新しい技能を習っても、学校で繰り返し取り組まないと忘れてしまう児童が多い。	・計算は、計算カードやプリントを使って繰り返し計算練習させる。 ・特に、わり算の復習や、小数・分数の計算練習を重点的に行う必要がある。 ・図形では、「観察や構成」に重点をおき、作業的・体験的な活動や使う道具を学年で明確化し、取り組む。 ・各学年で学習し身に付けたものを、日常生活や他教科等の学習へ活用し、習熟させていく。
○数量や図形についての知識・理解 ・数直線図や図を用いて立式できなかったり、式を、言葉、図、表、グラフなどと関連付けて用いて自分の考えを説明できなかったりする児童が多い。	・「式の表現と読み」を特に重視し、テープ図や数直線、図などの取り組みを各学年で明確化し、発達段階にあわせて指導していく。５・６年生では、数値が小数や分数の時にも数直線を使って表現できる指導を繰り返し行っていく必要がある。

４算数科の授業改善策

○算数への関心・意欲・態度

苦手意識を克服し、自信をもって取り組ませるために

１年　・児童が具体物の操作ができる場面設定を多くする。
　　・課題に対して、児童が見付けたことがらを中心にした学習のめあてを設定する。

２年　・量と測定では、実際に身の回りにあるものを測ることで、今習っていることが日常で役に立つということに気付かせる。
　　・ブロックや時計、水のかさや竹尺などの具体物を使って、算数的活動を多く取り入れた授業を行う。

３年　・授業の中で算数的活動への取り組みの時間を確保するために、整数、小数、分数の計算の意味や計算の仕方を数字カードなどの具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明できるような機会を設ける。
　　・小数や分数の大きさを比べる活動では、リットルやデシリットルます、図・数直線を用いて、具体物と関連させて大小比較できるようにする。
　　・長さ、体積、重さについては、体験的な活動を通して量感がわかるようにして、理解を深めさせる。
　　・二等辺三角形や正三角形では定規やコンパスを用いて自在に作図できるようにし、図形の構成や性質を理解させる。
　　・表やグラフでは、基礎的な知識、技能を身に付けさせ、資料を分類整理して分かりやすく表やグラフに表せるようにする。

４年　・伴って変わる二つの数量を生活の中から見付けたり、数量の関係を表やグラフを用いて表したり、調べる活動を多く取り入れて活動させる。
　　・図形の性質について意欲的に調べるために、平行四辺形、ひし形、台形などのカードを使い、それらのカードを敷き詰める活動を取り入れる。

５年　・自分の考えを数直線や式、図にして書かせ、友達と考えを交流できる場を設ける。
　　・具体物を用いて操作したり考えたりできるようにする。

６年　・繰り返し学習などで、基礎的・基本的な学力を身に付けることで、成功体験を多く積ませできる喜びを実感させていく。
　　・日常生活に結び付けた題材を多く使うなど、意欲的に取り組めるようにする。

○数学的な考え方
　計算の仕方や意味を理解させるために

１年　・具体物の操作、プロックなどの半具体物と言葉のつながりを、明確にするため、視覚的に分かりやすい教材を使用する。児童に言葉を繰り返したり、説明させたりする。
　　・演算決定の判断のための、場面やキーワードとなる言葉を整理して示す。それらを学年で統一し、習熟度別クラスで指導者が変わっても同じ指導ができるようにする。
２年　・計算や問題の解き方を考え、その解き方のよさを感じさせながら指導していく。
　　・問題を考えるときに、自分の考えを隣の人に説明する活動を積極的に取り入れる。
３年　・わり算、かけ算では、答えの求め方を考える学習活動を取り入れる。
　　・□を使った式では未知の数量を□として問題場面を式に表して、□の値を求めたり調べたりする活動を行う。
　　・問題解決学習に取り組ませ、自分の考えを表現する場面を意識的に授業の中に取り入れる。
４年　・問題の解き方を考える際に、図や式、テープ図、線分図など、考え方の方法を提示し、自分の考えをノートに書くための一助とする。
　　・自分の考えを友達に話したり、聞いた友達の考えを話したりする時間を設け、様々な考えがあることを理解し、考えの幅を広げる。
５年　・計算や図形の問題では、図、数直線、文などを使って自分の考えをノートに書かせたり、言葉で考え方を説明させたりする。
　　・既習事項を想起させ習ったことを使ったり、友達の考えを取り入れたりできるよう働きかける。
６年　・自分の考えを図や数直線、文章などいろいろな方法で書き表し、ペアやクラス全体で考えを表現する場を設けていく。
　　・ノートには自分の考えだけではなく、友達の考えやポイントも書くようにする。
　　・既習の学習内容を想起させ、習ったことを使って考えられるように助言する。
　　・数直線図等を活用して数量関係をとらえさせること、言葉の式を用いたり、整数や小数などの簡単な数値に置き換えて考えさせたりする。

○数量や図形についての技能
　学習したことを確実に身に付け、習熟させるために

１年　・技能の意味を理解させた上で、授業でのリズムある繰り返しを工夫し、家庭でも復習できるように計算カードの練習を保護者に協力を仰ぐ。
　　・定期的に習熟の状況を把握するためのテストを行い、必要に応じた個別の指導をする。
　　・身の回りのものに着目させ、児童が自ら見付ける活動を十分に行ってから一般化する。
２年　・数と計算では、くり上がりやくり下がりの補助的な数字を筆算に書き込むことを継続的に指導していく。
　　・量と測定では、実際に身の回りにあるものの長さを測ることにより、ものさしの使い方を習熟させ、生活科の植物観察などとあわせて、測定する機会を多く取り入れていく。
３年　・かけ算やわり算の計算やたし算ひき算の筆算が正確にできるように、百ます計算やプリントを使って繰り返し練習させる。
　　・二等辺三角形や正三角形をコンパスや定規を用いて作図する機会を増やし、自在に作図できるようにする。
４年　・わり算の定着を図るために、朝学習や家庭学習の中で継続的に復習の時間を設ける。
　　・日常生活の中でコンパスや分度器を使う機会を増やし、道具の扱いに慣れるようにする。
　　・日常の中で、時刻の間の計算をさせる機会を設ける。
５年　・朝学習の時間や家庭学習等で、わり算の計算練習を繰り返しさせ定着を図る。
　　・大きな数の学習については、数を表したカードや数直線を使って、億や兆の数の仕組みについて確認する時間をとる。
　　・概数の学習については、朝学習の時間や家庭学習でプリントを使って復習をする。また、プリントに取り組む前に四捨五入や概数の表し方について確認する時間をとる。
　　・プリントを使って繰り返し面積を求める問題に取り組ませ、公式の定着を図る。
６年　・計算スキルやプリントなどの問題を活用し、繰り返し計算練習をすることで定着を図る。
　　・個人の能力に合わせて問題の数値を設定し、確実に解けるようにする。
　　・図形では、体験的・作業的な活動を多く取り入れる。

○数量や図形についての知識・理解

学習内容を理解し、自分の考えを説明でるように習熟させるために

１年　・加法・減法について、１年生の児童の特性を生かし、簡単な物語を構成して具体物から抽象への理解を深める。

２年　・立式や問題を解く際に、なぜその式になるのか、その理由を自分のノートに書いたり発表したりする時間を多くとるようにする。

・問題を図に表す活動を多く取り入れ、図を用いた活動に親しみを持てるようにする。

３年　・文章問題において、ノートに自分の考えを書き、テープ図や数直線など様々な方法を用いて自分の考えを説明できるように、このような活動を授業中に意識的に取り入れる。

４年　・わる数やわられる数など、算数で使う言葉の意味を理解させる。

・言葉で立式させて数量の関係を考えさせる。

・量や長さ、面積の単位と測定の意味を理解できるよう、プリントを使って繰り返し練習させる。

・言葉、図、テープ図、数直線などと関連付けて考えて立式させ、自分の考えを説明したり、分かりやすく伝えあったりする活動を意識的に取り入れる。

５年　・新しく出てきた考え方・解き方や言葉は丁寧に押さえ、その意味がしっかり理解できるようにする。

・文章問題では、重要語句や数値に注目させる。また、図や表、数直線などいろいろな方法を使って自分の考えをまとめさせる。

６年　・授業の中で、既習事項の確認をする場面を設け、繰り返し内容を確認する。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校理科）

１　理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

・ノートを活用し、課題提示⇒予想⇒予想理由⇒実験⇒結果⇒考察⇒結論の学習過程を繰り返し指導し、定着を図った。ノートの書き方を指導し、自分たちで見通しをもって、実験や観察ができるようになってきて、意欲的に取り組めた。

・昨年度と同様、実験や観察をする機会を多く取り入れたことで、意欲的に学習できるようになってきた。

・キーワードや文型を示すことで、考察を書くことができるようになってきた。
今までの経験や既習事項をもとに、実験結果を予想することができてきた。

課題

・予想・考察ではグループで話し合う場を設定し、自分の考えを発表させる機会を増やすことが必要である。また、自分の言葉で結果や考察を書けるようにしていきたい。

・自分の生活経験と結びつかない実験に関しては、予想をすることが難しい児童が多い。児童がイメージしやすい資料提示や説明が必要である。また、実験の予想ができても、予想の理由を書くことができない児童が多い。考えた理由をノートに書かせることを継続し、問題意識をもたせるようにすることが必要である。

２　理科における調査結果の分析

内容別結果の分析	＜３年生＞ ・３年生でチョウやカイコを育てて、昆虫の成長の順序や体のつくりについての見方や考え方を育てることは大変重要である。また、おもちゃ作りを通してゴムや風がものを動かす働きについての見方や考え方を育てることが重要である。 ・太陽と地面・光・電気・じしゃくは実際に実験を行い課題～結論までの学習過程を繰り返していくことで、知識の定着を図る。植物は育つ過程を観察し、植物の成長や体のつくりについての見方や考え方を育てることが重要となる。 ＜４年生＞ ・教科全体として、目標値を下回る結果となった。前年度と比べてもやや下回っている。 ・生命・地球領域では、植物やこん虫の育ち方、こん中のからだのつくりを中心に目標値と比べて下回っており、定着が見られていない。 ・物質・エネルギー領域では、風やゴムのはたらき、じしゃくのせいしつ、光のせいしつにおいて前年度よりも下回っており、目標値からも下回っている。 ＜５年生＞ ・教科全体として、目標値を下回る結果となった。しかし、前年度と比べると、５．９ポイント上回っており、徐々に力は付いてきている。 ・「生命・地球」の領域では、気温の測り方として適切なものを選ぶことが、目標値を下回っていた。昨年度と比べれば上回っているが、特に定着が見られなかったといえる。「物質・エネルギー」領域では、全ての問題が、目標値よりも１下回っている。特に「回路の流れの向き」や、「回路の流れを考える」問題では、下回っていた。今後力をいれて学習する必要がある。 ＜６年生＞ ・「魚のたんじょう」「人のたんじょう」「もののとけ方」目標値を上回っているが、その他の内容は目標値を下回っている。 ・特に大きく下回っているのが、「流れる水のはたらき」で、下回った。

観点別結果の分析	＜３年生＞ ・「自然事象への関心・意欲・態度」では植物や昆虫を実際に育て、生き物への愛情を育むとともに、成長のきまりや体のつくりの理解を図っていく。 ・「科学的な思考・表現」では、実験や観察を通して、差異点や共通点を考察したり、予想や仮設をもたせたりし、自分の考えを表現する力を身に付けることが必要である。 ・「観察・実験の技能」では、道具を使って安全に実験やものづくりをしたり、その過程や結果を記録したりする力を身に付けさせる。そのために一人一人が実験器具を使うことができるように、活動場面を多く設定する。 ・「自然事象についての知識・理解」では、観察カードやワークシートへの記入、実験についての話し合いをさせ、考えを深めたり自分の考えを伝えたりして、思考力を高め理解の定着を図るようにする。 ＜４年生＞ ・傾向として、思考の観点の問題の正答率が低い。時に、光や磁石などの内容で思考力が目標値に比べて下回っている。実験の考察を丁寧に確認することが課題となる。 ・また、知識の観点では植物の育ち方についての知識について目標値の半分以下となっている項目があり、丁寧な観察が必要であると考えられる。 ＜５年生＞ ・傾向として、「観察・実験の技能」の観点の問題の正答率が低い。特に「気温の測り方」や、「電球の回路の作図」などが、目標値よりやや下回っている。「実験や観察」の方法を正しく身に付けることが課題となる。 ・電気のはたらきについては、技能だけではなく、「知識・理解」の観点でも、目標値を下回る。今後、正しく知識を定着させる必要がある。 ＜６年生＞ ・関心・意欲・態度、科学的な思考・判断・表現は昨年度と比べて１５％以上大きく上回った。しかし、目標値と比べると下回っている。 ・観察・実験の技能は昨年度と比べて１０％上回っている。目標値と比べると下回った。 ・自然事象についての知識・理解は昨年度と比べて上回っている。しかし、目標値と比べると下回った。 ・全体的に昨年度と比べると数値は大きく上回っているが、目標値と比べると２０％ほど低くなっている。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○自然事象への関心・意欲・態度 ・関心・意欲・態度が十分ではない。	・児童が興味をもつよう、体験的な活動を多く取り入れる。
○科学的な思考・表現 ・予想の理由を書くことが十分ではない。	・生活経験や既習体験とつなげた根拠のある予想を立てさせたり、見通しを実験前にもたせたりさせる。また、その理由をノートに書かせることを継続していく。
・科学的な思考の展開が十分ではない。	・なぜ実験をするのか、その目的と方法をよく理解させる。また、学習の中で観察・実験の機会を多く取り、一人一人が理解できるよう実際に試す時間を確保する。
・科学的に考え、表現をすることが十分ではない。	・観察・実験を軸とする問題解決的な学習に主体的に取り組ませる。その中で、観察・実験結果の共通点や相違点を見つけさせて考察させていく。
○観察・実験の技能 ・目的に合った観察・実験方法が分からず、理解が不十分である。	・なぜ実験をするのか、その目的と方法をよく理解させる。また、学習の中で観察・実験の機会を多く取り、一人一人が理解できるよう実際に試す時間を確保する。 ・実験する前に、その意味と目的について時間をかけて考えさせる。また、実験結果について十分に予想させる。さらに、実験後は、結果について正確に記録するとともに考察させる。

○自然事象についての知識・理解 ・植物の育ち方についての知識や理解が十分ではない。 ・知識・理解の定着が十分ではない内容がある。	・体験的な学習を増やし、そこで発見したことや検証したことをクラスで共有する。また、視聴覚教材を用いて、定着を図る。 ・身近な生活と既習事項とを結びつけて考えさせる。

4　理科の授業改善策

○自然事象への関心・意欲・態度

自然事象への関心・意欲を高めるために

３年　・実験や観察をする時間を十分にとり、体験的な活動を増やし、意欲・関心を高める。
４年　・映像や写真などを使って資料提示を工夫したり、自分の実験キットを使ったりして進んで実験に取り組ませ、意欲向上を図る。
５年　・実験や観察をする機会を多く取り入れ、体験的な学習を通して関心・意欲を高める。
６年　・実験や観察をする機会を多く取り入れ、体験的な学習を通して意欲を高めていく。

○科学的な思考・表現

予想したり、考えたり、表現したりする力を高めるために

３年　・実験や観察を通して気づいたことや疑問に思ったことを自分の言葉でノートに書かせる。
４年　・実験や観察を通して、予想→実験→結果→考察→まとめの順番で学習を進める。予想では、その理由まで書かせ、根拠をもって実験に取り組ませる。実験を通して気付いたことや分かったことを自分の言葉で書くことができるよう児童が書いた考察への価値付けを積極的に行っていく。
５年　・実験や観察を通して、課題提示→予想→実験→結果→考察→まとめの順番で学習を進める。予想を書かせる時には理由も述べさせる。考察では、結果で出た数値やキーワードを入れながら自分の言葉でまとめさせる。
６年　・実験や観察を行う時に、生活体験や既存の知識を使って予想を立てたり考察をしたりする時間を十分に取り、少人数グループやクラス全体で自分の考えを発表する場を設ける。

○観察・実験の技能

目的に合った観察・実験方法を理解し、技能を高めるために

３年　・実験の方法やポイントを分かりやすく示し、正確に行わせる。
４年　・実験方法やポイントを図や写真などを使って提示し、正確に行わせる。
５年　・課題に対して、なぜ実験をするのか、その目的と方法をよく話し合い理解させる。実験する時間を十分に取ることで、実験器具の使い方を理解し、正しく使えるようにする。
６年　・実験や観察をする前に、意味と目的を理解させ、実験の方法を考えさせたり、正しい結果を導き出すための方法を十分に理解させたりするようにする。また、結果から考察する時間を十分に確保する。

○自然事象についての知識・理解

知識や理解を十分に定着させるために

３年　・実験や観察で理解したことを実生活と結び付けて考えさせる。
４年　・補足実験を行ったり、ワークシートを活用したりして、身に付けた知識の確実な定着を図る。視聴覚教材を用いて、実験や観察で獲得した知識の定着を図る。
５年　・視聴覚教材や教科書の資料等を活用して知識の定着を図る。また、児童の生活と既習事項をつなげて理解を深める。
６年　・視聴覚教材を活用する。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

１　生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

＜１年生＞

成果

・一人ひとりに朝顔の鉢を持たせ関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見つけることができた。また、種まき・世話の仕方等を２年生に教えてもらうことで、異学年との交流を深めることができた。

・学年のプランターに朝顔以外の植物（ホウセンカ・ひまわり・おじぎそう・ふうせんかずら）を植え、それらを観察することで、植物への関心がひろがった。

・２年生に連れて行ってもらった学校探検から発展して、グループで学校探検・インタビューを行い、クイズを作って学校と地域に関心をもつことができた。

課題

・校外にも目を向けさせるため、近くの公園などを教育活動の場として活用していく。

・区立保育園との交流会を通して、自分たちの成長を確認し、２年に進級する意欲や自己肯定感を高めていく。

＜２年生＞

成果

・地域社会への意識をもたせ、周囲の公園や図書館など、自分たちにとって最も親しみのある施設を身近なものとして感じることができた。校内のみならず、校外にも目を向けさせることができた。

・自分たちの成長を自覚し、進級への意欲や期待感を高めることができた。生まれた時の自分の様子や、これまでの成長の推移を、実感することができた。このことから、自分の過去を見つめるとともに、自分の将来・未来に向けての新たな展望について、肯定的な意識を持つことができた。

課題

・地域社会の中で生き、地域に貢献してくださっている方との交流が不十分である。交流の場は確保できたが、地域の方の話を聞くことで、自分が住む町に愛着を持ち、地域社会に貢献してくださっている方への感謝の気持ちを育む機会をもつことが十分達成できていない。

・生き物への愛着、命の大切さを感じることが少なく、生命尊重の意識がやや薄い。動くものや変化があるものに対して興味・感心をもつことができるが、そうでないものに対して、無関心になってしまうことがあった。「動植物の命の終わり」について、考えが及ばないことが多かった。

２　生活科における調査結果の分析

内容別結果の分析	＜１年＞ ・校外にも目を向けさせるため、近くの公園などを教育活動の場として活用していく。 ・区立保育園との交流会を通して自分たちの成長を確認し、２年に進級する意欲や自己肯定間を高めていく。 ＜２年＞ ・地域社会の中で生き、地域に貢献してくださっている方に感謝し、地域のことをより一層理解し、自分が住む町に愛着がもてるようにする。 ・生き物への愛着、命の大切さを感じることで、生命尊重の意識を高めていく。
観点別結果の分析	＜１年＞ ・自分が住む地域の公園、保育園に目を向ける。（関心・意欲） ・地域の施設を観察するとともに、体験活動の機会を増やす。（態度） ・目的意識をもって観察および経験したことを記録する。（気付き・表現） ＜２年＞ ・地域社会に貢献してくださっている方の存在を知るとともに、自分が育てている生き物の日常について、深い関心を寄せる。（関心・意欲） ・地域社会に貢献してくださっている方に感謝の気持ちをもつとともに、生き物への継続的な観察を行う。（態度） ・地域の中のどこで、だれが活躍しているのかを知るとともに、命の連続性について気付き、その様子を記録する。（気付き・表現）

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
１年 ・校外に目を向ける機会が十分でない。 ・自分たちの成長を自覚するとともに、進級への意欲や自己肯定感を高める必要がある。	・近くの公園などを教育活動の場として活用していく。 ・保育園との交流会を有効活用する。
２年 ・地域に貢献している人とのかかわり方を工夫する必要がある。 ・生命尊重の精神を涵養するため、生き物への関与のさせ方を工夫する必要がある。	・地域の方を訪問したりゲストティーチャーの話を聞いたりした時に、明確な目的意識を持たせて取り組ませる。 ・「豊かな心の発表会」を通して自然界の生き物をより深く理解するとともに、校内で育てている動植物とのかかわり方を工夫する。

４　生活科の授業改善策

＜１年＞

〇関心・意欲・態度

地域への関心、意欲をもたせ、体験を増やすために

・体験不足については、意図的に季節の変化を感じ取らせ、動植物に関わらせ、世話を通して、自然に触れる機会を設けていく。

・指導者自身も地域の自然や施設について学ぶ。

〇気付き

気付きの質を高めたり、活動する楽しさを味わわせたり、自分の成長を実感させ、自己肯定感を高めたりするために

・道具、材料の保管と活動の場所の確保をする。（おもちゃ作り・ふれあい交流会）

・２年生と１年生との交流（学校探検・あさがおの種まきなど）、１年生と保育園の年長児との交流会（「できるようになったよの会」「１年生を体験しようの会」）の内容を精査して、活動を継続する。

・「みんなの　にこにこ　だいさくせん」「もうすぐ２年生」などの活動を通して、自分自身の成長に気が付き、成長を実感することのできる活動を行う。

・地域の方をゲストティーチャーとして招き、ふれあい交流会などを通して、地域の中で育ち、地域の方と一緒に活動する楽しさを味わわせる。

〇思考・表現

観察する際、どこをどのように見て記録したらよいかはっきりさせるために

・国語の「おおきくなった」と関連して、観察の仕方と記録の仕方を習得させる。

・色・形・大きさ・高さ・太さ・重さ・長さ・触った感じ・におい・数など、身体の諸感覚を使うことを促す。

・いろいろな方向から見るなど丁寧に観察させる。

＜２年＞

〇関心・意欲・態度

地域及び生き物への関心、意欲を高め、体験を増やすために

・地域の方からの話をたくさん聞く中で、自分が住む地域に貢献している人がいることに興味をもたせる。

・活動が休止している冬の生き物への意識を継続させるために、晩秋から冬季も、毎日、球根や周囲の様子（自然環境）を観察させる。

〇気付き

地域の方の活動および生き物の様子を具体的に知り、より深い視点に立って、様々なことに気付くことができるようにするために

・地域の方がどのような面で貢献してくださっているのかを知り、どんな苦労があるのかに気付かせたり、自分の生活が地域の方に支えられて成り立っていることに気付かせたりする。

・変化が感じられない生き物や植物が、春を待ち、春に向けての準備をしていることに気付く。

〇思考・表現

地域での生活や生き物の様子を観察し、自分なりに考えたことを作文などで表現できるようにするために

・地域の人に感謝し、協力していこうとするにはどうしたらよいかを考え、作文などで表現する。

・１年というサイクルで生活している生き物の仕組みについて考え、自分なりに感想をもてるようにする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校　音楽科）

１　音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・低学年では学習のねらいを明確にし、何ができればよいかをわかりやすくすることで、楽しく音楽活動することができる児童が増えたが、まだ活動を理解できなかったり、うまく交わることができなかったりする児童もいる。
・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を高めるために、簡単な聴音や階名唱、歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。
・体を動かしながら歌ったり、リズム遊びを多く取り入れたりしたことで、楽しみながら歌い、リズム打ちする活動ができた。
・音楽の要素を表す言葉や読譜を覚えることで、音楽表現をするためにどうしたいかということをはっきりと言葉にできるようにするために、鑑賞と併せて音楽の要素や用語を意識して使えるように「国語で言えば」「算数で言えば」など子供にわかりやすいたとえを使い、表現の手段を考えたり選んだりすることができる児童が増えた。
・低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、なぞり読みやクイズ形式などを取り入れて階名唱を行うことで、読譜ができる児童が増えた。
・表現の技能については、基本的な歌唱法や器楽の奏法を繰り返し指導したり、流行の曲をリコーダーで演奏できるようにして楽譜を配付したりした結果、自分の表現技能に自信をもって歌唱やリコーダーの演奏ができる児童が増えてきたが、下位層が固定化してしまう傾向がある。
・鍵盤ハーモニカを学ぶ最初の授業に音楽専門講師を招き、指の置き方、息の吹き方、出し方しまい方などの基本や、鍵盤ハーモニカの楽しさを味わわせることができた。
・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにするために、国語の物語の読み方を例にして、なぜそう感じたのかの根拠を音楽の言葉で表すことを意識させたことで、音楽の曲想や特徴を音楽の要素の言葉を使って表すことができる児童が増えた。

２　音楽科における現状分析

内容別の分析	・低学年では、体を動かすことが好きで、音楽に伴う身体表現に生き生きと取り組んだ。 ・高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。 ・歌唱・器楽ともに基本的な奏法の指導を繰り返したが、楽器の方が音程を取りやすいため、合唱より合奏を好む児童が多いのは変わらない。 ・表現の技能は授業の時間だけで習得するのは難しく、休み時間も音楽室を開放して楽器に触れられるようにしている。積極的に楽器の練習に音楽室に来る児童は増えたが、そうでない児童の間の技能の差が開いている。 ・正しい音程で歌うことができず、音楽鑑賞の経験が少ないために様々な楽曲に親しむことができない。 ・鑑賞では楽曲が作られた時代の背景や作曲者のエピソードや、曲の特徴を意識させるように鑑賞カードを作成し、音楽を聴いて受ける感じの根拠を音楽の言葉であらわすということを、国語の物語文で主人公の心情を読み取る場合、その根拠になる言葉をさがすことに例えて授業を行った。その結果、音楽の要素と関連づけて鑑賞できる児童が増えてきたが、音楽のイメージを感じて身体表現をすることはできるが、それを音楽の要素などの言葉と結びつけて表現することが難しい児童がいる。また、比較鑑賞を行うと音楽表現の違いや特徴をより子供たちに感じさせることができた。
観点別の分析	○意欲関心態度 低学年ほど歌うことや演奏するといった表現活動への意欲が高い。高学年になると自信をもって表現できることや興味をもった曲には積極的にかかわろうとしている。また、ルールを守れない児童が少数いる。 ○創意工夫 低学年では音楽の特徴を感じて同じように表現しようとする子よりは、単に元気に歌って大きな音を出すことをよいとする子が多く、学年が上がるにつれて、読譜や技能の習得の困難さや語彙の少なさから、感受はできるが具体的な表現のイメージの言葉につなげることができない児童が増える傾向にある。 ○技能 視唱を繰り返したが、音符の中に階名が書いてある３年までに覚え切れていない児童が多い。高学年では読譜のために階名をカタカナで書かないようにして、音符を読ませることを繰り返した結果、読譜ができる児童が増えてきている。歌唱については、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。具体的な体の使い方を教え、毎時間発声練習行うことを積み重ねている。週１～２回の授業だけでは習得することが難しいが、少しずつ基礎技能が向上している。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。 ○鑑賞 低・中学年は曲の感じを身体表現であらわすことは喜んで行うが、感じたことや音楽の要素を言葉で表現することは難しい。高学年は、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じることはできるが、言葉でうまく説明できない児童が多い。比較鑑賞をすると表現の特徴の違いを感じることができる児童が多い。

３　現状分析に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○意欲関心 音楽表現することに一人で自信をもって取り組めない児童が学年が上がるにつれて増える。	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高めるとともに、授業のルールを徹底させる。
○創意工夫 音楽の要素や曲の特徴を感じてどう表現するか自分で考えたり、友達と意見を交換したりできる児童が少ない。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、感じたことや考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。
○技能 歌唱や楽器演奏、読譜の習得は個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。そのため、高学年になっても読譜や基本的な奏法が身についていない児童が多い。	・低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、読譜や基本的な奏法を身に付けられるようにする。また、グループ練習やペア練習や個別指導を行うことで技能の向上を図れるようにする。
○鑑賞 音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現できることが難しい。	・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴き、身体表現や言葉で感じたことや気付いたことを表現できるようにする。

４　音楽科の授業改善策

○意欲関心

音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするため意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高めるために、

１年　階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏や、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させ、授業の狙いを明確にして、ルールを守って発表の機会を多くし、音楽表現をすることを楽しく感じさせ、自信をもてるようにする。
２年　自分の歌声に関心をもち、楽しみながら生き生きと歌うことが第一に大切であることを指導する。また、朝の会などで歌う機会を日常的に増やす。
３年　階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信をもたせるようにする。
４年　互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。
５年　個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。
６年　個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。

○創意工夫

音楽の要素を表す言葉や読譜を覚えることで、音楽表現をするためにどうしたいかということをはっきりと言葉にできるようにするために、

１年　児童の発言を音楽の要素に結びつけて教師が整理することで、どんな工夫をしてリズム遊びやふし遊びをしたいか考えることができるようにする。
２年　人から指摘されて気付くのではなく、正しい音程と比較しながら歌う習慣を付け、よりよい声で歌えるようにするためにはどうしたらよいか考える機会をもたせるようにする。また、リズム遊びやふし遊びの工夫を考えることができるようにする。
３年　範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。

４年　範唱や範奏から楽曲の特徴を感じ取ったり、楽譜から楽曲をイメージしたりしたことを音楽の要素に結びつけ、表現の工夫をするために、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。
５年　範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。
６年　範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。

○技能
　低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、読譜や基本的な奏法を身に付けられるようにするために、

１年　歌唱については、大きな声で、音程を意識して歌わせる。器楽は、鍵盤ハーモニカは「鍵盤ハーモニカノート」を使って長期間のスモールステップでタンギングと指遣いを繰り返し練習し、個別指導で確実に身に付けさせる。打楽器は拍感を体感させるように指導する。
２年　階名唱を多く採り入れ、読譜を習慣化させる。歌唱は音程と階名の関連づけを意識させて指導する。鍵盤ハーモニカはタンギングと指遣いを繰り返し指導する。打楽器は楽譜を見ながら拍感を体感させる。
３年　階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。
４年　楽譜に階名をカタカナで書かずに読めるように音読や階名唱を繰り返し行う。歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは右手の運指やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。
５年　これまでと同様に階名唱や視唱、音符や休符の長さや演奏記号の確認を繰り返し行って知識の定着を図る。発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。リコーダーなど楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。
６年　階名唱や視唱、音符や休符の長さや演奏記号の確認を繰り返し行って知識の定着を図る。発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。リコーダーなど楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。

○鑑賞
　音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにするために

１年　音楽を聴いて曲想を体で表現する活動を多く取り入れ、曲を聞いた感じを低学年の言葉と音楽の言葉を結びつけて表す活動をする。
２年　様々な楽曲を聴かせることで音楽に親しませ、お気に入りの曲を見つけさせ、感じたことを「ひとこと感想」として言葉で表現できるようし、親近感をもたせる活動を行う。
３年　音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、ワークシートや教室掲示の工夫をする。
４年　音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
５年　音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
６年　音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素やこれまで学習したり、生活の中で聴いてきた音楽と関連させたりしながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

１　図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果・はさみ、のり、段ボールカッター、電動糸のこぎりや彫刻刀などの道具の適切な使い方や材料の接着方法は、前学年から繰り返し指導することで、定着が見られた。
・板書により、活動内容を理解し、安全に道具を使用することができる児童が増えた。
・絵の具の使い方の指導を通して、色づくりを進んで行う姿勢に繋がった。
・鑑賞活動を積極的に取り入れることで、楽しんで友人の作品を見る姿勢が養われた。
・個別指導と担任との情報共有により、児童の理解を深めることができた。

課題・めあてをもって作品をつくることが難しい児童がいる。
・自分の思い付いたものを絵に表す活動が苦手であると感じている児童がいる。
・自分のイメージに合わせて、絵の具の表現を工夫することが難しい児童が多い。
・鑑賞した作品の良さや感じたことを、言葉で表す活動が難しい児童がいる。また、それぞれの作品の良さを自分の作品に生かしていこうとする意識が薄い。

２　図画工作科における現状分析

内容別の分析	・造形遊びをする活動を通して、技能の定着が見られた。４年生の児童は３年生の時に造形遊びで段ボールカッターを使用しているため、段ボールカッターを使って形を切っていく活動に、進んで取り組むことができた。また、友人と一緒に造形活動をする経験は、意欲的に取り組む姿勢に繋がった。 ・絵に表す活動では、絵の具の混色を呼びかけることで、混色を楽しんで行う児童が増えた。自分のつくりたい色をつくったり、絵の具に混ぜる適切な水の量を調節したりする技能に個人差がある。自分のイメージに合わせて表現が工夫できるように、技能の定着を図る必要がある。 ・絵に表す活動で、コンテや液体粘土を使い、つくりながら自分の表したいテーマを考えていく活動に対して、苦手意識を持つ児童が多い。 ・立体や工作に表す活動では、道具や材料の技法を繰り返し指導することで、定着が見られた。また、彫刻刀やのこぎりも、段階的に学ぶことで定着が見られる。 ・鑑賞では、周りの友達の表現の特徴を言葉で表すことが難しい児童がいる。友達の作品に興味をもっている児童は多いが、表現の良さを自分の作品に生かしていく姿勢に課題がある。
観点別の分析	・「造形への関心・意欲・態度」については、学年を通して活動に興味をもって、積極的に取り組んでいるが、自分の表現を良くしようと、主体的に取り組む姿勢をもつことが難しい児童がいる。材料や道具を用意するなどし、児童が思い付いた表現や既習した表現を試しながら自分の表現したい思いを実現し、学んでいく環境をつくっていく必要がある。また、お互いの作品の良さを表現に取り入れる機会を設け、鑑賞から自己の表現を深め、意欲的に取り組む態度を養わせる。 ・「発想や構想の能力」については、発想することが難しい児童には、製作の過程やいくつかの表現の例を見せるなどして、題材の提示方法を工夫することにより、活動に見通しをもって取り組む児童が増えた。一方、参考作品や見本から模倣することに意欲的だが、自分なりの独創的な表現をすることが難しい児童もいる。 ・「創造的な技能」については、前の学年で使った道具は、繰り返し使うことで正しい使い方の定着が見られる。絵の具を使った表現は、定着に個人差がある。児童が表したいイメージが表現できるように、指導方法と題材を工夫する必要がある。 ・「鑑賞の能力」については、友人の作品を鑑賞する活動に興味をもって取り組んでいる。特に低学年は、お互いの作品鑑賞に新鮮味をもって、楽しんで行っている。作品に興味をもっている児童は多いが、表現の良さを自分の作品に生かしていく姿勢に課題がある。

３　現状分析に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○造形への関心・意欲・態度 ・自分の表現を良くするために、主体的に取り組むことが難しい児童がいる。	・お互いの表現を高め合う姿勢を養わせることで、自分のイメージを表現する楽しさを味わい、粘り強く自分の表現に向き合うことができるようにする。
○発想や構想の能力 ・つくりたい思いをもち、自分の表現を深めようとすることが難しい児童がいる。 ・絵に表す活動に難しさを感じている児童がいる。	・思い付いた表現を試す場を設け、表現する過程を重視し、児童自身がめあてをもつことができるようにする。 ・児童が進んで表したいことを見付けられるように、題材の示し方を工夫し、材料や技法を選択できるようにする。
○創造的な技能 ・材料や用具の使い方は経験をすることで、定着が見られるが、絵の具を使った技法の定着に、個人差がある。	・学年が上がるにつれて表現の幅を広げることができるように、題材を設定し指導する。 ・既習事項を、繰り返し確認することで技能の定着を図る。筆づかいや水の量など、目の前で絵の具の使い方を繰り返し見せ、定着を図る。
○鑑賞の能力 ・友人や参考作品の表現の良さを自分の作品に生かす姿勢を育成する必要がある。	・鑑賞活動と表現活動の関連を図り、形式的な鑑賞にならないように、鑑賞活動の意義を児童と共有する。 ・児童が表現の工夫に気付き、自分の表現に生かすことができるように鑑賞の機会を設ける。

４　図画工作科の授業改善策

○造形への関心・意欲・態度

お互いの表現を高め合う姿勢を養わせることで、自分のイメージを表現する楽しさを味わい、自信をもって粘り強く自分の表現に向き合うことができるようにするために、

１年　・児童の身近なテーマや材料を取り上げ、興味をもって取り組むことができるように指導する。
２年　・活動の中での造形的な試みを見守り、励ましながら、児童自身が満足して表現することができるように指導する。
３年　・自分が表現の主体となって表す楽しさを味わわせ、友人とともに造形活動を行うことに興味をもつことができるように指導する。
４年　・友人とともに表現を高め合い、児童それぞれが自信をもって自らの表現を決定していくことができるように、表現を試すことができる場を設ける。
５年　・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設ける。お互いの表現を認め合い、それぞれの工夫を表現に生かしていく姿勢を養わせる。
６年　・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設ける。気が付いたことを基に自分らしい表現を考えられるように指導する。

○発想や構想の能力

思い付いた表現を試す場を設けることで、表現する過程を重視し、児童自身がめあてをもつことができるようにするために、

１年　・つくる行為の楽しさを満喫させ、自分の好きな色や形をてがかりに、自分が表したいことを見付けられるように指導する。
２年　・かくものに実際に触れさせ、材料と関わる時間を十分に設ける。児童が体全体を使って思い付いた表現方法を試すことができるように、場や材料を設定する。
３年　・ワークシートや板書を活用し、活動のめあてを確認し、自分の表現の意図を考え、つくりながら表現を方向付けることができるように指導する。つくり試しながら、自分に合った表現ができるように指導する。

４年　・ワークシートや板書を活用し、自分の表現の意図を考え、計画を立ててつくることができるように指導する。つくり試しながら、自分に合った表現ができるように指導する。
５年　・ワークシートや板書を活用し、児童がつくりたいイメージを整理し、表現したいことを試しながら、自分のイメージをもつことができるように、材料や場を設ける。
６年　・ワークシートや板書を活用し、児童がつくりたいイメージを考えられるようにする。作りながら表現を試行錯誤できる場を設け、自分の表現を構想し、納得できる形や色を考える姿勢を養わせる。

〇創造的な技能
学年が上がるにつれて表現の幅を広げ、既習事項を繰り返し確認することで技能の定着を図るために

１年　・はさみの適切な使い方や、美しい切り口や効果を体験させる。適切なのりの分量や接　　着の仕方について慣れさせる。
２年　・ボンドやのりを使った素材の接着に慣れさせ、材料の組み合わせ方を工夫させる。人をかく活動では腕や足の動きを実際に見せたり、絵の具を使ってかたまりでかかせたりして、児童が自分のイメージを表現できるようにする。
３年　・絵の具に混ぜる水の加減や筆の使い方を、自分のイメージに合わせて工夫できるように、絵の具の水の量や混色、筆使いによる印象の違いを経験できるように指導する。
４年　・自分の表したいことに合わせて、筆につける水の加減や筆の使い方などを工夫できるように指導する。ローラーやあみ、ブラシを使わせることで、自分の表現の幅を広げられるようにする。のこぎりの適切な使い方を学び、木材の切断や接合を経験し、用具の使い方を工夫できるように指導する。
５年　・電動糸のこぎりや彫刻刀の適切な使い方を学び、自分の表現の幅を広げられるように指導する。これまで習った絵の具の技法を活用できるように指導する。
６年　・電動糸のこぎりや彫刻刀の適切な使い方を確認し、自分の表したいことに合わせて材料の特徴や表し方を考えて表現する力を養わせる。

〇鑑賞の能力
鑑賞活動の意義を児童と共有し、児童が表現の工夫に気付き、自分の表現に生かすことができるようにするために

１年　・自分や友人の作品を鑑賞する活動を楽しみ、お互いの感じ方や考えの良さを認め合うことができるように指導する。
２年　・ワークシートを用いて、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考えの良さを認め合うことができるように指導する。
３年　・友人と作品について話し合う機会を設け、友人のよさを自分の考えに取り入れ、自分の表現を友人に伝えることができるように指導する。
４年　・作品の経過を皆で共有する機会を設け、お互いの良さや思ったことを楽しんで、自分のイメージをもつことができるように指導する。
５年　・作品の鑑賞を通して、作者の表現の意図や工夫に気付き、自分たちの作品の表現を高め合うことができるように指導する。
６年　・参考作品やお互いの作品の印象を交流させる機会を設け、児童が作品の表現の意図や工夫に気付くことができるようにする。自分が表現したいイメージと、作品の形や色を関連付けることができるように指導する。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校　家庭科）

１　家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・初めて学ぶ学習に興味と関心をもち、意欲的に取り組んだ。興味のある身近な課題を与えたことで、関心・意欲が高まった。一人作業や少人数グループの学習を取り入れ、衣食住に関わる実践的、体験的な活動を行ったことで、「できる自分」へと成長していることに気づくようになった。これからの自分の成長について展望できるように工夫する。

・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけ、家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。

・写真、ビデオ、学び合い、個別指導などを通して、個人差はあるが基礎的・基本的な技能が身に付いた児童は多く、効果的であった。しかし、時間が空くとできなくなってしまう児童が多かった。そのため、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。学習を振り返り、繰り返し行うことで、技能の定着に効果的であった。今後も継続していく。

・ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習を取り入れたことで、家庭科で学んだ知識を日常生活と関連づけて考えることができた。これからも、継続していく。しかし、実際に家庭生活に生かしている児童は多くない実態がある。

２　家庭科における調査結果の分析

内容別結果の分析	・「家庭生活と家族」については、手伝いをしている児童は多い。しかし、家族の一員として家庭の仕事を分担し継続している児童は多くない。 ・「日常の食事と調理の基礎」については、調理に対する関心は高く、意欲的に取り組む児童が多い。さらに、家庭との連携を図り、日常生活に活用できるように配慮する。 ・「快適な衣服と住まい」については、裁縫等の製作には意欲的に取り組む児童が多い。衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。 ・「身近な消費生活と環境」では、環境に配慮することの大切さに気づいている児童が多い。また、物の選択、購入と活用に関する基礎的・基本的な知識と技能が身についている児童も多い。
観点別結果の分析	・「家庭生活への関心・意欲・態度」は高いが、関心・意欲が継続し、さらに生活に活かしていこうという意欲には課題がある。 ・「生活を創意工夫する能力」については、他教科で身に付けた知識を家庭科と関連付け、活かそうとする力には課題がある。 ・「生活の技能」については、裁縫の基礎的な技能など身に付けようと努力をしている児童が多い。しかし、個人差があり、もう少し練習時間を必要とする児童がいる。 また、時間が空くとできなくなってしまう児童が多く、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。 調理に対する関心は高く、意欲的に取り組む児童が多いが、実際に家庭生活に生かしている児童は多くない実態がある。子供の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげていく必要がある。 ・「家庭生活についての知識・理解」については、調理に対する関心は高く、学習・作業共に意欲的に取り組んでいる。子供の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげていく必要がある。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○関心・意欲・態度 ・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではない。	・子供達が興味をもてるような身近な課題を与え、手縫い・ボタン付け・調理・住まい・衣服等に関心・意欲をもたせる。基礎的な技能を定着させ、さらに生活に活かせるように、家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせる。
○創意工夫 ・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付け、日常生活で気づいて、活かそうとする意欲が十分ではない。	・「沸騰」「環境」などのように、他教科と共通している部分を家庭科で活かすことができるように類似点を理解させ、その気付きを家庭生活へと広げさせる。

○技能 ・手縫い・ボタン付け・調理等基礎的な技能の個人差が大きい。製作では、最初の意欲が最後まで続くか心配な児童や進度に個人差が見られる。	・写真・ビデオ・練習布・拡大図などを活用し、視覚的にも理解しやすい指導を重視する。また、根気強く作業を進めたり、個別に指導をし、また、友達と励まし合ったりして完成させ、つくる喜びや成就感を味わえるようにする。
○知識・理解 ・調理に対する関心は高く、学習・作業共に意欲的に取り組んでいるが、日常生活と関連付けて考え、生活上の課題を解決する力が十分とは言えない。	・保護者の生活の多忙化や食生活の多様化等している中で、子供の生活の実態をしっかり把握し、家庭の協力を得ながら知識を習得し、理解を深めるように指導をする。

４　家庭科の授業改善策

○関心・意欲・態度

５年　・子供に自ら取り組ませるために、授業では興味をもてるような身近な課題を与える。初めて学ぶ学習に興味と関心を持ち、手縫い・ボタン付け・調理・住まい・衣服等基礎的な技能を定着させ意欲的に取り組めるようにする。また、一人作業や少人数グループの学習を進めて、実践的・体験的な活動を通して「してもらう自分」から「できる自分」へと成長していることに気づかせ、これからの自分の成長について展望をもたせる。

６年　・子供達が意欲をもち、課題意識を高めるために、興味をもてるような身近な課題を与え、課題を解決する楽しさや期待がもてるようにする。また、実際に体を動かしたり手を使ったりして、具体的な事柄について学習し、意欲を高める。

○創意工夫

５年　・授業での縫い物・調理実習等の実践的・基本的な活動が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。また、自分なりに考えたり、工夫したりできるように、適切な発問を行い、学習意欲を高める。

６年　・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。衣食住について、調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していけるように発表し合うことに取り組ませる。

○技能

５年　・手縫い・ボタン付けや調理実習等の基礎的・基本的技能の定着に向け、製作の過程や出来上がりの写真、ビデオの活用、実演、友達同士の学び合い、個別指導等を通して基礎的・基本的な技能の定着に取り組ませる。

６年　・実習や製作では、製作見本を細かく準備し、基礎的・基本的な技能を活用し、製作の手順や縫い方を理解させる。そして、個別指導、励ましの声掛けを多くし、児童同士の学び合いを支援し、取り組ませる。

○知識・理解

５年　・子供の生活の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげる。そのために、ワークシートの活用や家庭での調べ学習を取り入れて、取り組ませる。

６年　・日常生活と関連付けて考え、生活上の課題を解決する力を育成する。そのために、自分の生活に目を向けて調べたことや体験したことから得た情報をワークシートにまとめさせる。自分の考えを発表し、意見を交流させることでお互いに学び合う場をつくる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

１　体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

【成果】

・ルールを工夫したりスモールステップで練習したりできるようにしたことで、運動の楽しさを味わい、すすんで運動に取り組めるようになった。
・課題解決学習を進めることで、自分に合ったためあてをもち、解決する力がついた。
・学習カードを用いて、毎時の授業のポイントや自分の必要な練習を理解させることで、自分のめあてに向き合いながら意欲的に運動する児童が増えた。
・アドバイスをしたり見合いをしたりする学び合いを通して、運動の工夫の視点を身に付けさせることができた。
・低学年では、水遊び、リズム遊び、ボール投げ蹴りなどの運動も動きを工夫して取り組ませることで十分に体を動かすことができた。

【課題】

・健康や安全な生活についての指導し知識を自分たちの生活に生かすことのできない児童がいる。
・運動能力の二極化がさらに広がっている。
・２０ｍシャトルランの数値が依然として低く、本校の課題となっている。

２　体育科における調査結果の分析

内容別結果の分析	・ボール運動では、チームの時間を十分に取り、声かけや練習を工夫させたことで、チームの仲間と励まし合って運動したり、アドバイスをしたりしてお互い高め合いながら思いきり運動することができた。 ・運動に対する意欲は高く、すすんで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。 ・持久力や水泳は技能差が大きい。 ・休み時間は限られた場所でも元気いっぱい遊び、運動に親しむ姿が見られた
観点別結果の分析	・関心、意欲は非常に高く、多くの児童が運動に対して意欲的に取り組んでいる。 ・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度はさらに身に付けさせる必要がある。 ・自己の課題をもち、課題を解決するために練習を工夫することができる。 ・技能面では、特に水泳、持久力を高める運動において差が大きい。領域によっての技能の差は大きい。 ・技能では、投げる能力が低くなっている。授業の中で投げる運動を取り入れることが必要である。また、運動能力が二極化している。 ・知識・理解では、健康に対する意識はあるが生活のリズムの不規則な児童がいる。夜更かしや朝食をしっかりととらないなどの生活習慣が身に付いていない児童がいる。 ・思考・判断では、運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。

３　調査結果に基づいた授業改善のポイント

課　題	改善の方針
○意欲・関心・態度 ・約束を守り、安全に気を付けて運動する。	・児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりや規律について十分指導する。
○思考・判断 ・一人一人が自己の課題を見付けることや、仲間で励まし合ったりして運動に取り組む。	・グループ学習や学び合いの場を設定し、児童が自分の力に応じた練習を選ぶことができるようにする。また、グループ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。
○運動の技能 ・技能の差が大きい。 ・持久力を高める取り組み。	・体力向上月間には、休み時間を通して運動遊びなど運動量を確保する。 ・校舎改築に伴い、体育朝会を低・中・高学年で日程を分ける。発達段階に応じて運動を選定し、一般化を目指していく。

○知識・理解（保健） ・自らの生活に生かすこと。	・身の回りの題材を取り入れ、自分のこととして考えられるよう工夫する。 ・実技などを取り入れ、具体的な対処法を体験する

４　体育科の授業改善策　昨年度のものを入れています。変更したら赤で色をつけてください。

○意欲・関心・態度

１年　・場所（校庭、体育館、プール、第二校庭など）、環境（雨、高温注意報、光化学スモッグ）遊具の正しい使用法（雲梯、鉄棒など）ルール（鬼ごっこの捕まえ方や、逃げ方など）常に、全員が約束事とその理由が分かるようする。

２年　・きまりを守ることの大切さや安全に気を付けながら運動することの大切さ気を付けなかった時の危険性を毎時間丁寧に指導し、児童に理解させる。

３年　・ゲームでは、児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて指導する。

４年　・運動をする前に安全面で配慮することについての指導を行う。特に、跳び箱やマットなどの器具を使う活動については特に配慮して指導を行う。また、班でルールを決めるなど意欲的に運動への関心を高められるような活動を単元の始めに設定する。

５年　・児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて十分理解させるために、単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させることで、意欲を高める。

６年　・児童の実態に応じてルールを工夫し、児童が楽しく運動できるようにする。
・安全に気を付けて運動に取り組めるように十分指導する。

○思考・判断

１年　・自分のめあてをもつ、仲間と助け合えるように学習をできるだけスモールステップで行い、めあてをもって取り組みやすくする。
・補助具や学習順序、体のどの部分に注目するかなどグループ学習で見つけ合ったりできるようにする。

２年　・いろいろな場を設定することで、自分の課題に合った場を選び、スモールステップで取り組めるようにする。
・友達と見合う活動を取り入れることで、友達の良さから工夫した動きを見付けたり選んだりできるようにする。

３年　・課題が易しくなるような場や補助具を活用し、児童が自分の力に応じた技を選ぶことができるようにする。
・グループ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。

４年　・グループ分けを工夫するとともに振り返りの時間を設けることで、友達のよさ、チームのよさに気付かせる。教え合ったり励まし合ったりできるよう学習カードを活用して教え合うための視点を設定し、課題を見つけられるようにする。

５年　・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返ることで、学習のポイントを考えさせる。
・一人一人が自分に合った課題をもてるようにする。様々な場を用意したり、学び合いの工夫をしたり、運動のポイントを示したりすることで、課題を解決できるようにする。

６年　・児童の実態に合わせた場や補助具を活用し、児童が自分の力に合った課題を選ぶことができるようにする。また、グループ学習やトリオ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。

○運動の技能

１年　・技能の個人差を少なくするには、日頃の外遊びや、夢中になれる楽しさが大切なので、授業中の運動量を十分に確保する。
・休み時間の外遊びを多くの児童が楽しめるように、授業でも鬼ごっこや、ボール遊び、固定遊具などを使ってできるだけ楽しい課題を用意する。

２年　・鉄棒を使って、ぶら下がったり回転したりといった器械運動につながる運動感覚をさらに高めていく。
・鬼ごっこやボール遊び、固定施設を使った遊びを多く取り入れ、楽しく遊ぶ中で技能が高まるようにする。
・動きの良い児童を手本として見せ、友達の動きを参考にして自分の動きに取り入れていけるようにする。

３年　・授業や体育的な活動において、運動量を十分確保する。
　　・マット運動や鉄棒運動では、映像、掲示物、カードなどを活用し、技のポイントを分かりやすく提示する。
４年　・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあっためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。
　　・グループ活動を取り入れて、技能のポイントについて見たり、学び合ったりする場面を設ける。
　　・児童に学習の流れを理解させ、学習規律を徹底することで、運動量を確保する。
５年　・技能が高い児童を手本として見せ、視覚的にイメージをもたせるようにする。
　　・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。
　　・指導を工夫し、運動量を十分確保する。
６年　・技のポイントを分かりやすく提示する。
　　・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。
　　・単元計画を工夫し、十分に運動量を確保できるようにする。
　　・視聴覚教材を用いて、正しい動きを理解させる。

〇知識・理解（保健）
４年　・規則正しい生活習慣を身に付けさせるために、保健の授業を行うとともに、養護教諭・栄養士と連携し、自分の生活習慣や体の発達・発育について正しい理解と健康的な生活を送るための実践的な理解を図る。
５年　・けがの防止や心の健康について、視聴覚教材を用いて理解させるとともに、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。
６年　・病気の予防について、様々な資料を活用し、正しく理解させ、学習したことを自分の生活に生かせるようにする。
　　・視聴覚教材を用いて、知識の定着を図る。